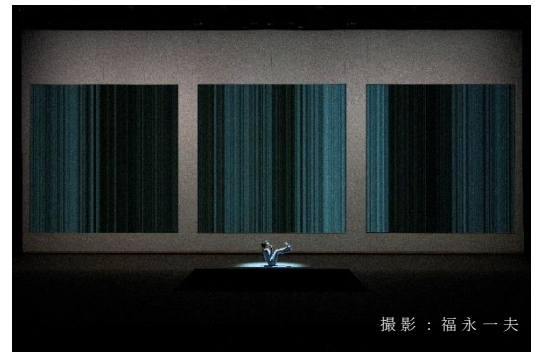


2020(令和2)年12月16日 報道発表資料  
[本リリース発信元] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

## 幻の新作パフォーマンスの3日間限定無料配信が決定！ ダムタイプ 新作パフォーマンス「2020」映像配信

平素よりお世話になっております。このたび、18年ぶりのダムタイプの新作として、国内外から高い関心と注目を集めたパフォーマンス作品「2020」の無料配信(3日間限定)が決定いたしました。本作はKYOTO STEAM—世界文化交流祭—2020のプログラムのひとつとして、2020年3月に上演予定でしたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止したパフォーマンス作品で、このたび、無観客で収録、編集したものを配信します。



先行してこの10月に行った上映会では、会場全体から音を響かせるなど、圧倒的な空間を作り上げたダムタイプ。配信映像にも、ご期待ください。現代の人間社会が直面する事象について、洞察と探求を繰り返した末に完成した本作は、時代の大転換期の年の瀬に、私たちに深い思考を促すでしょう。報道関係の皆様におかれましては、何卒ご注目、情報掲載にご協力のほどお願い申し上げます。

### <開催概要>

ダムタイプ 新作パフォーマンス「2020」映像配信

配信日時：2020年12月25日(金)10:00～27日(日)23:59【日本時間】

配信場所：ロームシアター京都公式YouTubeチャンネル(無料配信)

[https://www.youtube.com/channel/UC17J354cZsjO\\_0QOta8sAZw](https://www.youtube.com/channel/UC17J354cZsjO_0QOta8sAZw)

配信内容：ダムタイプ 新作パフォーマンス「2020」 2020年/日本/65分

制作 | ダムタイプ/ロームシアター京都

協力 | 株式会社タケナカ

企画製作 | ロームシアター京都

お問い合わせ：ロームシアター京都(代表) TEL.075-771-6051(10:00-17:00)

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

共催：KYOTO STEAM—世界文化交流祭—実行委員会

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当：松本、長野

電話：075-771-6051(9:00～17:00) FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatrekkyoto.jp

## ダムタイプ

池田亮司・大鹿展明・尾崎 聡・白木 良・砂山典子・高谷史郎・高谷桜子・田中真由美・泊 博雅・濱 哲史・原 摩利彦・平井優子・藤本隆行・古舘 健・藪内美佐子・アオイヤマダ・山中 透・吉本有輝子

### 【プロフィール】

1984年に結成。ヴィジュアル・アート、映像、コンピューター・プログラミング、音楽、ダンスなど、様々な分野の複数のアーティストによって構成される。京都を活動の拠点とし、プロジェクト毎に参加メンバーが変化して制作される作品は、既成のジャンルにとらわれない、あらゆる表現の形態を横断するマルチメディア・アートとして国内外で発表されている。2018年にポンピドゥー・センター・メッス(フランス)で個展「DUMB TYPE: ACTIONS + REFLEXIONS」を開催、2019年には新作やアーカイブを加えてバージョンアップした展覧会が東京都現代美術館にて開催された。2022年に予定されている第59回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館出品作家に選出されている。

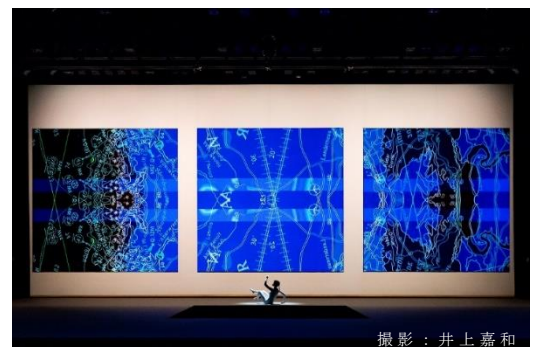
### 【配信にあたって】

2020年3月、ダムタイプのパフォーマンス《2020》は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で上演中止となりました。

久しぶりに京都で新作パフォーマンス制作の機会を得て、再びメンバーが集合し制作を開始した2018年には、このような未知のウイルスの感染が世界中に拡大するというような状況は予想していませんでしたが、約1年半にわたるクリエイション期間中には、人間社会が直面する様々な事象（グローバル化、SNS、超高度情報化社会、監視社会、AI、コミュニケーション等々）について話し合い、思考を巡らし、それらを捉えようとする視点を持った作品へと成長していきました。

この新種のウイルスは我々人間にどのような変化をもたらすのでしょうか。経済的にグローバル化され国家と国家が競争する世界ではなく、すべての細部が協力し合うようなシステムについて、人と人とのコミュニケーションについて、立ち止まり考える機会となり得るのでしょうか。

一度は上演中止となった本作品が、このたび、記録映像の配信という形で公開できますことを、ロームシアター京都ならびに関係者の皆様に感謝申し上げます。



撮影：井上嘉和



撮影：井上嘉和